

都市再生整備計画 事後評価シート
佐伯市中心市街地地区



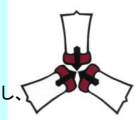
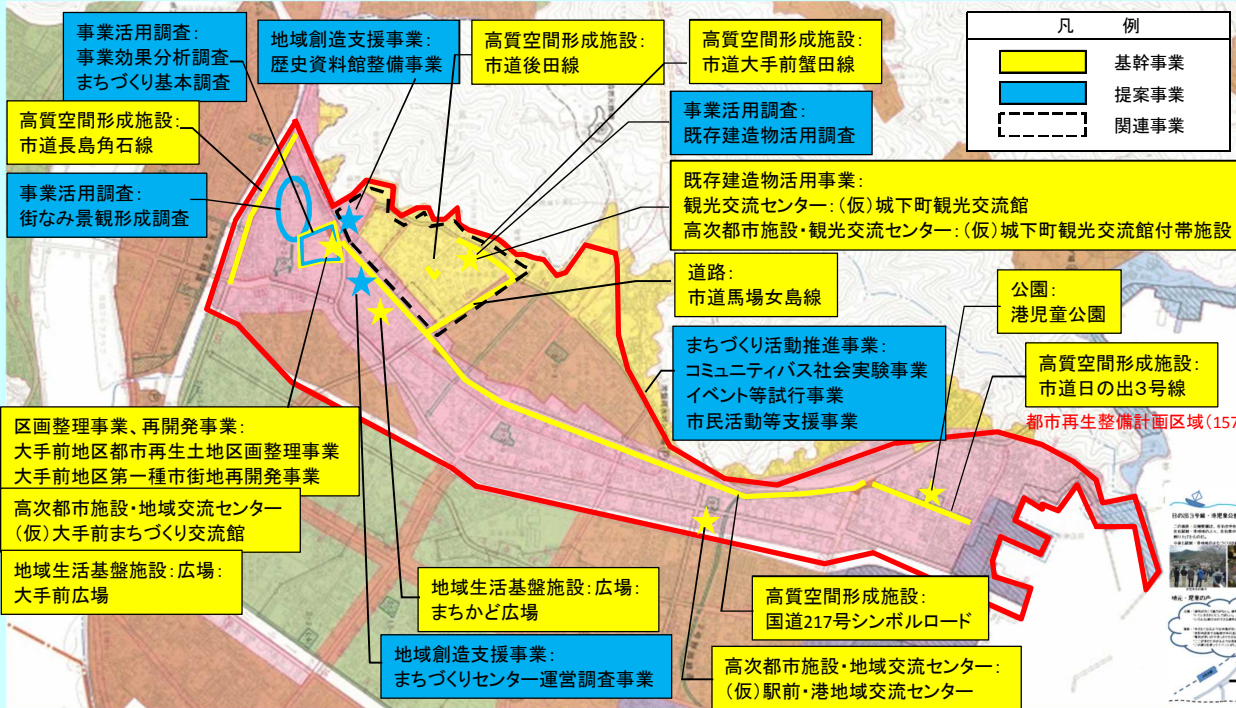



平成27年3月

大分県佐伯市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	佐伯市	地区名	佐伯市中心市街地地区			面積	157ha			
交付期間	平成22年度～26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	7.281百万円	国費率	0.45			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道馬場女島線)、公園(港児童公園) 高質空間形成施設(石畳、緑化施設、照明灯)、高次都市施設(駅前・港地域交流センター、(仮)大手前まちづくり交流館)、既存建造物活用事業((仮)城下町観光交流館)									
		提案事業	地域創造支援事業(まちづくりセンター運営、歴史資料館)、事業活用調査(街なみ景観形成調査、景観形成調査、既存建造物活用調査、まちづくり基本調査、事業効果分析)、まちづくり活動推進事業(コミュニティバス社会実験、イベント等試行、市民活動支援)									
	事業名											
	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響								
当初計画から削除した事業	基幹事業											
	提案事業	地域創造支援事業(土地区画整理事業)		大手前開発事業手法の変更			影響なし					
新たに追加した事業	基幹事業	公園(大手前公園)、地域生活基盤施設(交通広場)、高次都市施設((仮)城下町観光交流館付帯施設)		大手前開発事業手法の変更、周辺地区部会からの提案			影響なし					
	提案事業											
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	歩行者通行量	人/日	2,656 H21	2,837 H26		2,003	×	ありなし	●	主要事業(大手前開発事業)の完成が見込めないことが主な原因と考えられる。	H27年11月頃
	指標2	交流人口	人/年	141,000 H19	156,000 H26		145,000	△	ありなし	●	計画期間内に、交流促進のための主要施設である歴史資料館及び観光交流センターの事業効果の発現が見込めないため、評価値が目標値に達しない。ただし、今後、効果の発現により数値の改善が見込まれる。	H28年3月頃
	指標3								ありなし			
	指標4								ありなし			
指標5								ありなし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	まちづくり交流クラブ登録数	団体	61 H21			73				市民活動の活発化により、登録団体数が増加したことで、まちづくりセンターの利用者が増え、一定の効果が発現した。	H28年3月頃
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	①行政と商店主との協議を重ねた結果、個店指導(キラリ輝く繁盛店づくり)などの活動が活発化した。また、その影響により市民意識調査でも、買物に対する満足度が上がった。②一定の施設整備が完了し、食育団体など特定の市民活動が活発化した。③魅力的な道路整備により、観光客の歩く姿が増えた。また、それにあわせたガイド活動等も活発化した。④こどものまちへの愛着が高まり、まちづくりへの参加機会が増えた。											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	中心市街地活性化協議会や庁内推進委員会による、事業進捗状況及び成果の把握、事業遂行方法の点検		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 事業ごとの評価を行い、その後の事業推進に活かすことはできたが、計画全体では効果を反映することができなかったため、計画を統括的に管理する。				
	住民参加プロセス	地域住民による事業部会の設立とワークショップ		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 事業推進に当たり、今後必要に応じ、住民参加によるワークショップを開催し、市民活動の活発化、コミュニティの強化を図る。また、事業実施終了箇所についても、引き続きボランティア活動の推進など側面から支援する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	中心市街地活性化協議会の設立・運営		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● この協議会を中心に、中心市街地の活性化に資する民間事業等への事業推進のための支援を行う。				

様式2-2 地区の概要

佐伯市中心市街地地区(大分県佐伯市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 中心市街地におけるにぎわいの創出と、都市のシンボルゾーン形成を本計画の目標とする。 目標1: 都市機能の配置と回遊性の向上によって便利で暮らしやすい生活環境を整え、「地区住民・市民が集う街」を目指す。 目標2: 豊かな自然と歴史的な観光資源を活かした街歩き観光による交流促進を図り、「来街者(観光客)が集う街」を目指す。		歩行者通行量	単位: 人/年	2,656 H21	2,837 H26	2,003 H26
		交流人口	単位: 人/年	141,000 H19	156,000 H26	145,000 H26
			単位:	H	H	H
			単位:	H	H	H
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>○まちかど広場(セタイベントの様子)</p>  <p>○街なみ景観形成調査(WSの様子)</p>  <p>まちづくりルールブックを作成し、地域や不動産屋に配布</p>  </div> <div style="width: 55%; text-align: center;">  <p>事業活用調査: 事業効果分析調査 まちづくり基本調査</p> <p>地域創造支援事業: 歴史資料館整備事業</p> <p>高質空間形成施設: 市道後田線</p> <p>高質空間形成施設: 市道大手前蟹田線</p> <p>事業活用調査: 既存建造物活用調査</p> <p>高質空間形成施設: 市道長島角石線</p> <p>事業活用調査: 街なみ景観形成調査</p> <p>既存建造物活用事業: 観光交流センター:(仮)城下町観光交流館 高次都市施設・観光交流センター:(仮)城下町観光交流館付帯施設</p> <p>道路: 市道馬場女島線</p> <p>公園: 港児童公園</p> <p>まちづくり活動推進事業: コミュニティバス社会実験事業 イベント等試行事業 市民活動等支援事業</p> <p>高質空間形成施設: 市道日の出3号線</p> <p>区画整理事業、再開発事業: 大手前地区都市再生土地区画整理事業 大手前地区第一種市街地再開発事業</p> <p>高次都市施設・地域交流センター(仮)大手前まちづくり交流館</p> <p>地域生活基盤施設: 広場: 大手前広場</p> <p>地域生活基盤施設: 広場: まちかど広場</p> <p>高質空間形成施設: 国道217号シンボルロード</p> <p>地域創造支援事業: まちづくりセンター運営調査事業</p> <p>高次都市施設・地域交流センター:(仮)駅前・港地域交流センター</p> <p>凡例 ■ 基幹事業 ■ 提案事業 □ 関連事業</p> <p>都市再生整備計画区域(157ha)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○駅前・港地域交流センター</p>  <p>○港児童公園</p>  <p>駅前・港地域まちづくり瓦版</p>  <p>完成式典で、まちづくり瓦版配布</p> </div> </div>						
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの運営やイベントの実施等によりまちづくりへの関心が高まり、市民活動の活発化につながったが、参加者の年齢的な偏りや固定化がみられるので、より幅広い世代の参加を促す必要がある。 ・城下町としての歴史遺産の保存や地区内道路の整備、まちなみの景観保全を行ったことにより、観光客の歩く数が増え、一定の観光客が確保できたが、更なる観光客の誘致を図るため、情報発信を図る必要がある。 ・景観に配慮した道路整備や歴史的な街なみの保全を行うことで住環境の魅力向上につながったが、今後増え続ける空き家を活用した事業を構築するとともに、地域コミュニティの強化を図る必要がある。 					
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・大手前地区のにぎわい創出のため、中心市街地の核となるべく、拠点施設を整備する。また、既存商店街等民間事業者との連携を図る。 ・まちの担い手の育成のため、地域住民がお互いに助け合える取組を実施するとともに、地域活動により多くの世代が参加できるよう、活動しやすい環境を整える。 ・空き家対策のため、中心市街地内の空き家・空き店舗を活用し、地域コミュニティの場づくりを行い、交流を促進するソフト事業を構築する。 ・市民活動の活発化を図るため、まちづくりセンターの運営や住民参加型のイベント等を開催する。 ・「おもてなし」機能を持続させるため、商店街や市民活動団体等によるイベントを支援していく。また、観光情報の発信機能の強化や、観光客に滞在時間を延長してもらえるよう、観光マップや案内等を充実させる。 					